



平成17年度第2回自動車整備士技能検定学科（口述）試験

〔一級小型自動車整備士〕

18. 1. 15

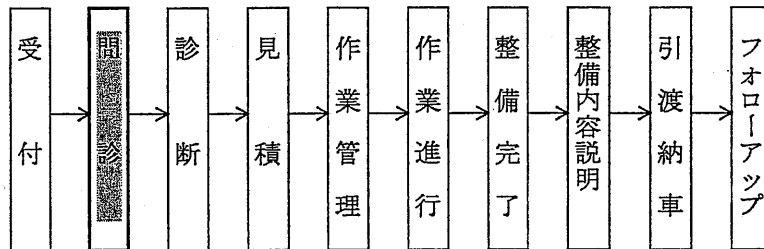
問 題 用 紙

〔注意事項〕

1. 問題用紙と問診用紙は別になっています。問診用紙には、受験番号、氏名及び実技試験を受けるかどうかを該当欄に記入下さい。
2. 試験終了後は、この問題用紙を持ち帰り下さい。

問題1. 下図は「整備対応手順の流れ」を示したものです。下記の情報をもとに「問診」を実施して下さい。

また、問診後、どこが悪いか不具合の原因について試験員が質問するので口頭で回答して下さい。



図：整備対応手順の流れ

〔情報〕

整備依頼者サトウ氏が、「ヒーターの調子が悪い。」という不具合に係る修理を依頼するために、当該自動車に乗って整備工場を訪れた。

これまでに得た情報は、次のとおりである。

1. サトウ氏は、当該自動車を片道約60分の通勤に使用しており、通勤時間の半分程度は、朝・夕共に渋滞路を走行している。
2. 当該自動車に関する情報

初度登録年	平成12年
エンジン	電子制御式ガソリン・エンジン
総排気量	1,480cc
駆動方式	前輪駆動（FF）
トランスミッション	オートマティック・トランスミッション
エアコン	マニュアル・エアコン
総走行距離	49,000km

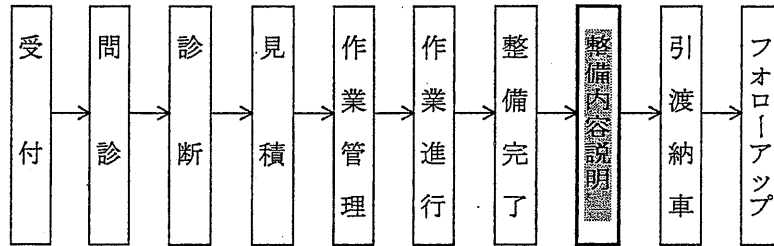
（裏面へ続く）



問題2. 下図は「整備対応手順の流れ」を示したものです。下記の情報をもとに「整備内容説明」を実施しなさい。特に、水温センサの交換の説明においては、「水温センサが壊れていたのにどうして暖機後は調子が良かったのか」についても説明しなさい。

また、試験員が「整備内容説明」の途中で質問をする場合があるので、その質問に答えなさい。

なお、試験の都合上、点検整備記録簿に記載された点検良好の箇所、整備保証の適用及び整備料金の説明は行わなくてよい。



図：整備対応手順の流れ

〔情報〕

整備依頼者ヤマダ氏から、「朝にエンジンのかかりが非常に悪く、エンジン警告灯が点灯している。ただし、暖機後のエンジンの調子は全く問題ない。」という不具合に係る修理に加え、継続検査後1年目の定期点検整備と日常点検整備を行うようにとの依頼があり、必要な点検整備作業を行った。

これまでに得た情報及びこれまでにを行った点検整備作業は、次のとおりである。

1. 当該自動車に関する情報

初度登録年	平成10年
エンジン	電子制御式ガソリン・エンジン
総排気量	1,998cc
駆動方式	前輪駆動 (FF)
トランスミッション	オートマティック・トランスミッション
総走行距離	73,000km

2. 点検整備作業

- ① 定期点検整備及び日常点検整備（作業内容は用意されている点検整備記録簿のとおり）
- ② 水温センサ断線のダイアグノーシス・コードが記録されていたため点検した結果、水温センサ内部で断線していたので、当該部品を交換した。

注：なお、部品等の交換については、全てヤマダ氏に連絡して了解を得てから行った。